

地の塩、世の光とされた

(マタイ5・13～16)

一、私たちは何者か？

きよいうの説教題は「地の塩、世の光とされた」です。「〇〇とされた」とした理由は、イエス・キリストを信じる者は、すでにそうなっているからです。

「イエス・キリストを信じたら地の塩になるのですか？ そうなりたいとは思いますが、私なんか、まだまだです」と思われるでしょうか。あるいは、「イエス・キリストを信じたら世の光になるのですか？ そうなりたいとは思いますが、私なんかまだまだです」と思われるでしょうか。

ですが、私たちイエス・キリストを信じる者たちは、地の塩、世の光になるのではなく、すでにそうなっています。ですから、「地の塩、世の光とされた」というタイトルを付けさせていただきました。

二、地の塩とされている

では、どういう意味で、イエス・キリストを信じる者が「地の塩」なのでしょう。あるいは「世の光」なのでしょう。

まず、「地の塩」ですが、これは塩味のことを意味しているようです。と言いますのは、塩は味付けの意味合いで

語られていることが多いからです(↓レビ2・13a、ヨブ6・6)。塩は不思議です。料理に塩は欠かせません。適度の量が使われていますと、素材の味を引き立たせます。私たちイエス・キリストを信じる者は、世にあって、地の塩です。塩味が濃すぎても良くないでしょうし、薄すぎて塩味がなくなったら、さらに良くないです。13節を見てまいります。〈あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです。〉とあります。

イエス・キリストを信じている者の塩味とは、どのような味なのでしょう。それは、聖書の他の箇所を思いつつ、受け止めたらよろしいかと思えます。

コリント人への手紙第二に、こういう聖句があります。(2・15～16a)私たちは救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられた芳しいキリストの香りなのです。滅びる人々にとっては、死から出て死に至らせる香りであり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる香りです。この聖句の中にある「香り」を、「塩味」に置き換えたらいかがでしょうか。次のようになります。「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神に献げられたキリストの塩味です。滅びる人々にとっては、死から出て死に

至らせる塩味であり、救われる人々にとっては、いのちから出ていのちに至らせる塩味です」となります。

三、世の光とされている

14節を見てまいります。〈あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができませぬ。〉と、主イエス・キリストはおっしゃいました。世の光ということとは、教会外の人々は私たちを特別な目で見ていて、ということ。ふだんはキリスト教のことを意識しない人であっても、クリスチャンが少しでも問題行動を起こすと、「あれがクリスチャンですか？クリスチャンとは、ああいう人たちなのですか？」と批判的に見るようになります。それは仕方のないことです。私たちは「世の光」とされているからです。

では、世の光として光を輝かすためには、何をしたら良いのでしょうか。16節をご覧ください。〈このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。〉と、主は語られました。すなわち、人々の前で光を輝かせることです。そのためには、何をしたら良いのでしょうか。単純です。〈良い行い〉です。では〈良い〉とは何でしょうか。この箇所が使われている言葉「カロス」は、「外観が美しい」の意味です。

すなわち、その人のやっていることが美しいと映ることです。「法律に抵触しない。合法的だから大丈夫だ」とか、「これこそが筋道だ」と主張して筋を通したとしても、美しく映らないことがあります。そういうことを避けなさい、と主イエスがおっしゃっているように思われます。私たちは、できる限り美しさが残るような振る舞い、人々の心に良い後味が残るような振る舞いを心がけたいものです。

ですが、美しく振る舞うとは、格好を気にして立派に振る舞う、という意味ではありません。その人の美しさは内面から出てまいります。コリント人への手紙第二に、(6・8b～10)私たちは人をだます者のように見えても、真実であり、人に知られていないようでも、よく知られており、死にかけているようでも、見よ、生きており、懲らしめられているようでも、殺されておらず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持っていないようでも、すべてのものを持っていきます。とあります。パウロはだれを指してこの言葉を語ったのでしょうか。第一義的にはコリントの信徒たちですが、キリスト者全般に語られている言葉です。これが私たちの姿であると、受け止めてまいりません。私たちは内側に、イエス・キリストという宝をいただき、聖霊の宮とされています。